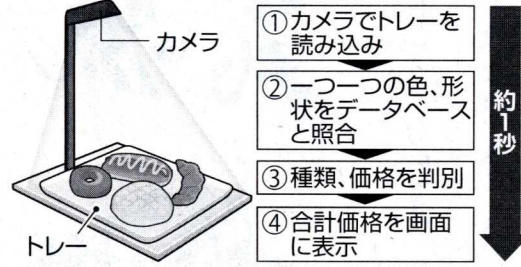


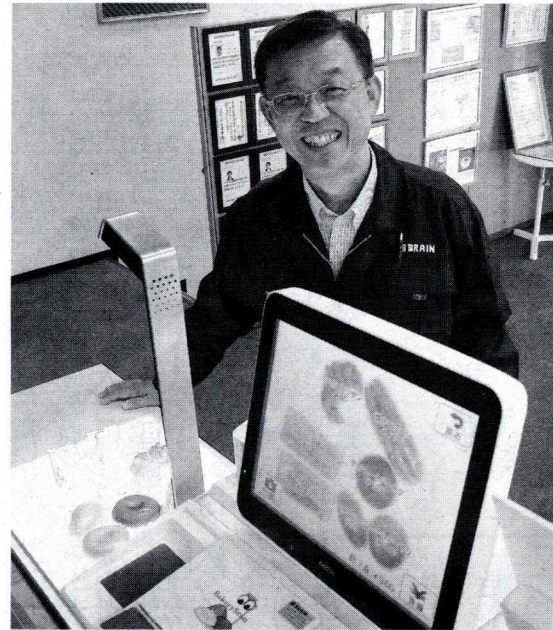
時代を ひらく

システム開発を手がけ、画像解析の技術に強みを持つ。地元の特産品「播州織」のメーカー向けに開発したデザインシステムが主力だったが、パン屋向けのレジシステムという新たな市場を開拓しつつある。

ブレインが開発した「ベーカリースキャン」のイメージ



パンをスキャン すぐ精算



複数のパンをカメラで読み取るシステムを開発したブレインの神戸寿社長（兵庫県西脇市で）

「ベーカリースキャン」と、そのまま精算できる。という商品名で2013年から 同じ形をしたサンドイッチ展開している。販売時点情報でも具材の違いを読み取り、管理システム（POS）付き 正答率は98%を超える。のレジにつないだカメラが、 トレーに載せたパンを読み取る。形や色を識別して事前に 参入した取引先から、「レジに登録した画像と照合する。約 打ちの負担を減らせる製品が1秒で商品の価格や名前、合 できなかった」と07年に相談を受けたのが、きっかけだ。 焼きたてのパンにはパーコ

ブレイン（兵庫県西脇市）

ードをつけられないため、店員は、パンの特徴と価格をすべて把握しておく必要がある。「商品を感じるのが大変で辞めてしまう人もいる（大手）」。レジで、客が長時間待たされることも多い。

開発に乗り出した。最初は8割ほどしか識別できなかつたうえ、読み取りに23秒もかかるなどしたため、いったんは開発をあきらめた。しかし、08年のリーマン・ショックで、一気に仕事が減り、「仕事の幅を広げるしかない」と再挑戦した。

認識率を上げるため、パン焼き器を購入して実験を繰り返した。パンは同じ種類でも、焦げ具合などが異なる。それでも同じパンと識別できるよう画像処理技術を改良した。日光の加減で明るさが異なる店舗では、正確に読み取るのが難しかったが、レジの台にバックライトをつけ、半透明のトレーを使うことで解決した。

ようになってきた。早期に売上高を現在の5倍の10億円にしたい」と意気込む。（井岡秀行）

小さな人材・会社

社員22人のうち、20人が技術者。当面は、ベーカリースキャンの拡販に向けて営業部門を拡充する方針だ。神戸社長は「職人肌の人間が多いので、明るく元気な人材でバランスを取りたい」と話す。

神戸社長は学生時代、仲井戸麗市さんらのフォークバンド「古井戸」のメンバーだった。1974年に松下電工（現パナソニック）に入社し、同社へのコンピューターの導入に携わった。実家の材木屋を継ぐために3年後に退社したが、会社員時代の経験を生かして地元のパソコン教室でプログラミングの講師を続け、82年に起業した。

ベーカリースキャンは、優れた技術を表彰する近畿経済産業局の「関西ものづくり新撰2014」に選ばれた。13年7月期の売上高は2億円。

これまでに、「ドンク」やスーパー「オークワ」など14店舗で採用された。チェーン展開している大手の店舗に一括で導入してもらおう商談も進んでいる。パン以外の用途も視野に入れる。例えば、数万点に及ぶ部品で構成される大型エンジンなどの点検に使えば、作業効率が上がる。

重機大手と共同研究を進めており、神戸社長は「地方の小さな会社だが、大企業との商談でも門前払いを食わない

近畿経産局が技術表彰